

単科精神科病院における 救急トリアージシステムの構築

医療法人社団 成仁病院
野本奈美子 片山成仁

はじめに

当院の救急受入体制

- ・開院当初よりフリーアクセス型救急体制
- ・消防庁、警察、他医療機関等からの受け入れ要請に24時間対応

精神科救急の背景－1

症状の特性



・意識・知的機能・記憶・知覚・思考
障害を有する

治療契約に必要なインフォームドコンセント
成立が困難



必要な検査・治療介入が困難

精神科救急の背景－2

要請リピーター群の存在

複雑な社会背景、軽度の症状

- ・救急車を頻回に要請
- ・長時間救急車を拘束



真に必要な現場への救急車出動の妨げ

目的

受電段階のトリアージにおいて

- ① 迅速にニーズ・状態像・対応を見極める
- ② 問題を明確化→こちらの対応に対してインフォームドコンセントを成立
- ③ リピーター群に治療的かつ行動療法的に対応、それによりリピート行動の抑制
- ④ 地域救急システムの円滑な活動に協力

方法

1. トリアージシステムの構築

- ① 専門看護師の設置
- ② 救急インテークカード
- ③ 救急電話対応モジュールの活用
- ④ 5段階のトリアージレベル
- ⑤ 救急ステータスシート
- ⑥ 意識障害・身体疾患予測アセスメントシート

トリアージシステム

① 専門看護師

救急電話対応・トリアージシステム構築・
運用を専門に担当する看護師

トリアージシステム

②救急インタークカードの活用

基本情報に加え、必要情報を8群に分類して聴取する

トリアージシステム

救急インテークカードの活用

救急インテークカード8項目

意識障害	身体面
精神面	対応注意要素
経済面	家族力
ADL自立度	社会支援

トリアージシステム

③救急電話モジュールの活用

PCにある専用画面でさまざまな状況設定した受電対応モジュールを見ながら、実際の電話対応を行う。

トリアージシステム

④5段階のトリアージレベルの設定

病院資源に応じた受け入れ基準の目安として、5段階のトリアージレベルを設定

○	即時介入
△(+)	何らかの介入を必要とし、受入はDr 診断による
△	翌日対応可能である
△(-)	受入が反治療的
×	治療契約不可能

トリアージシステム

⑤救急ステータスシートの活用

8群に分類し聴取した情報を④のトリアージレベル毎に分類したステータスシートを作成。インタークカードへ入力の際は、このシートを見ながら判定を行う。

トリアージシステム

⑤救急ステータスシートの活用

救急ステータスシート8項目

精神症状	身体症状
意識障害	対応注意要素
社会支援	家族力
ADL自立度	経済力

トリアージシステム

⑤救急ステータスシートの活用

例)精神症状項目

○	幻覚・妄想・興奮・混乱
△(＋)	パニック・ヒステリー・健忘・徘徊
△	ODレベル30以下
△(－)	OD常習・対人依存
×	症状無・ホテル代わり・酩酊状態

トリアージシステム

⑥意識障害・身体疾患予測アセスメントシートの活用

精神症状の訴えの裏にある身体症状を見逃さず、治療介入の優先順位を判定する。
意識障害・身体症状を専門科毎に分類したアセスメントシートを使用。

該当した場合はすぐに必要なICを行い、他科(身体専門)搬送に移行。

方法

2. トリアージシステム実際

① 救急トリアージの対象

家族・消防庁・警察・他医療機関・施設からの受け入れ患者すべて

② 調査期間

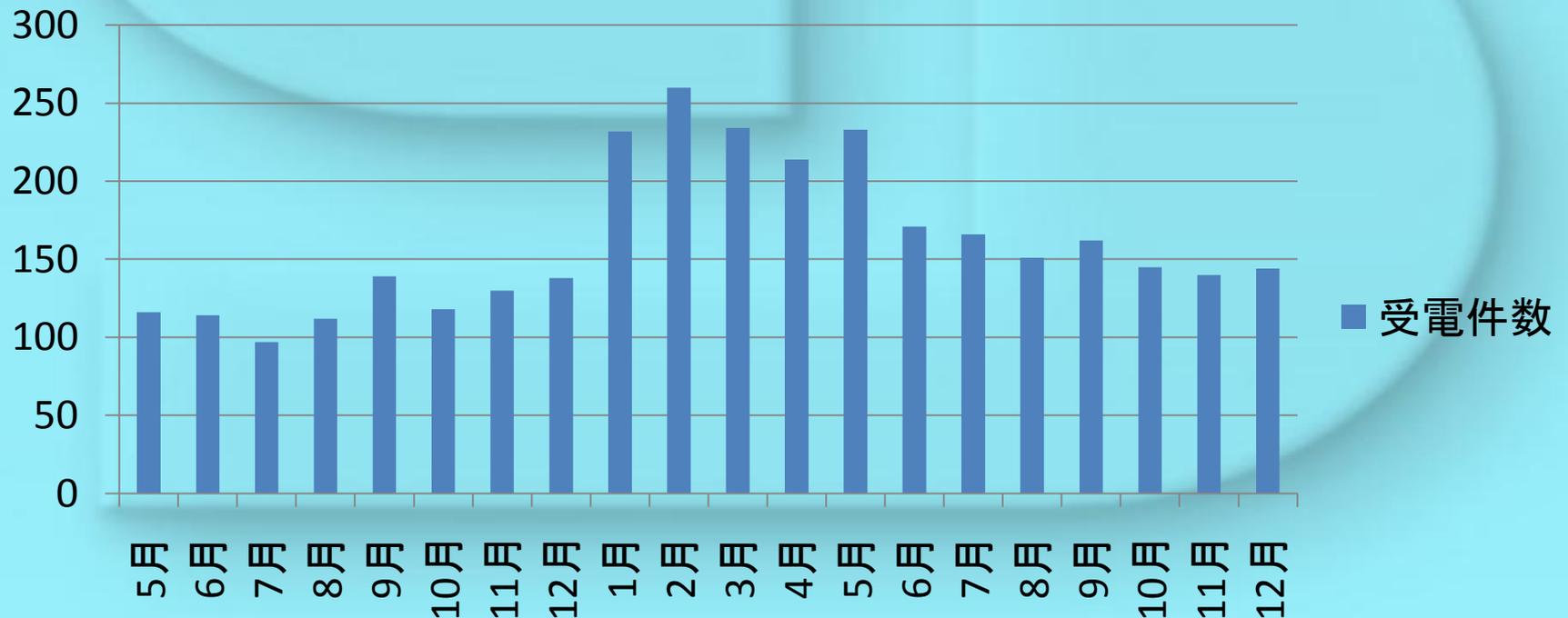
H20年5月1日～H21年12月31日(579日間)

結果

1. 救急受電件数の推移

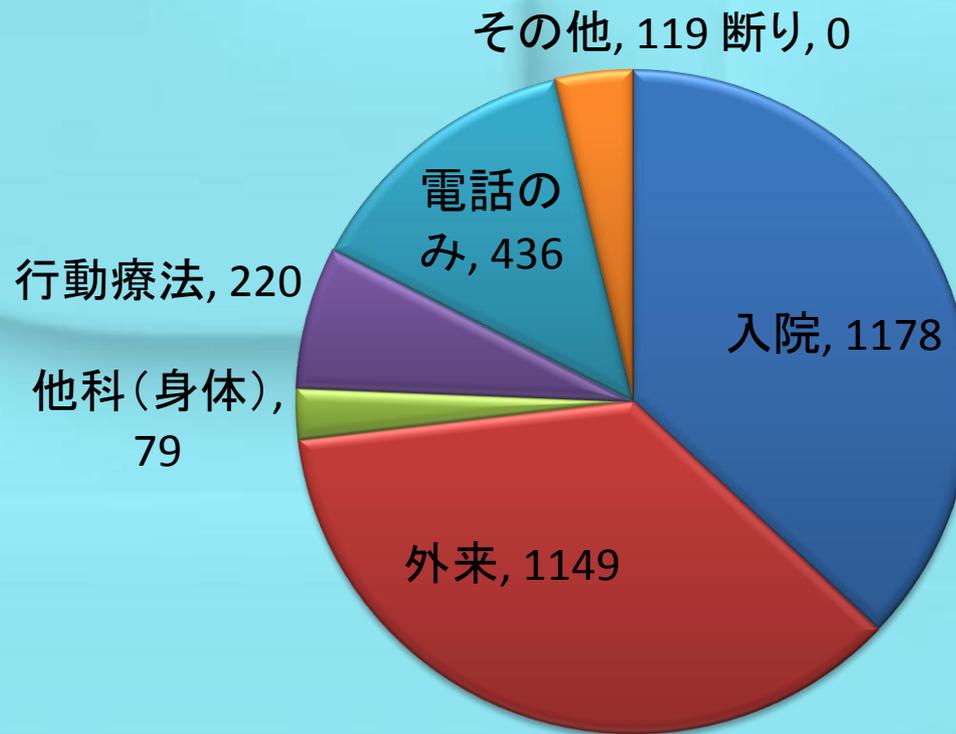
- ・システム導入後、件数維持～増加(最多で約2倍以上)

受電件数



結果

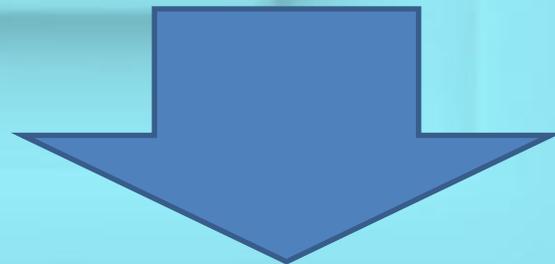
2. 総受電件数;3181件の内訳



結果

3. 要請リピーター群対応

- ・ 220件のリピーター群に対し、自宅療法・自費診療による治療的かつ行動療法的対応を実施。



- ・ 群該当患者: 28人→11人まで減少

3. トリアージレベル判定組合せ

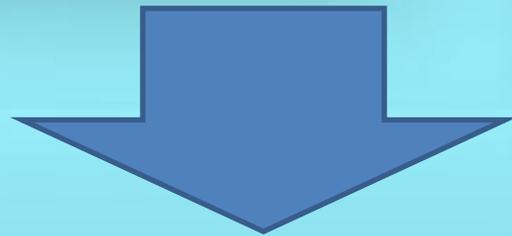
治療契約困難対象となるもの

単独で×	意識障害		
	身体		
	精神		
	除外リスト		
複数項目に該当する場合×	精神	経済面	家族
	ADL自立	社会支援	家族

考察

1. シートによる自動判定⇔Dr 診断による個別対応

- ○・×の組み合わせの明確化

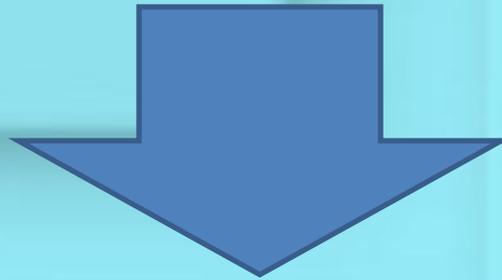


- 判定～対応までの標準化の可能性

考察

2. 判定△の場合の判断、対応

- ステータスレベル毎の条件設定が必要



- 個別性に応じた「人」の判断により決定
- プライマリリーナスにより対応

考察

3. 救急トリアージの展望

- 役割特化チーム: ○×対応に特化
- 個別対応チーム: △対応に特化



- 機能別救急トリアージ・対応の実現